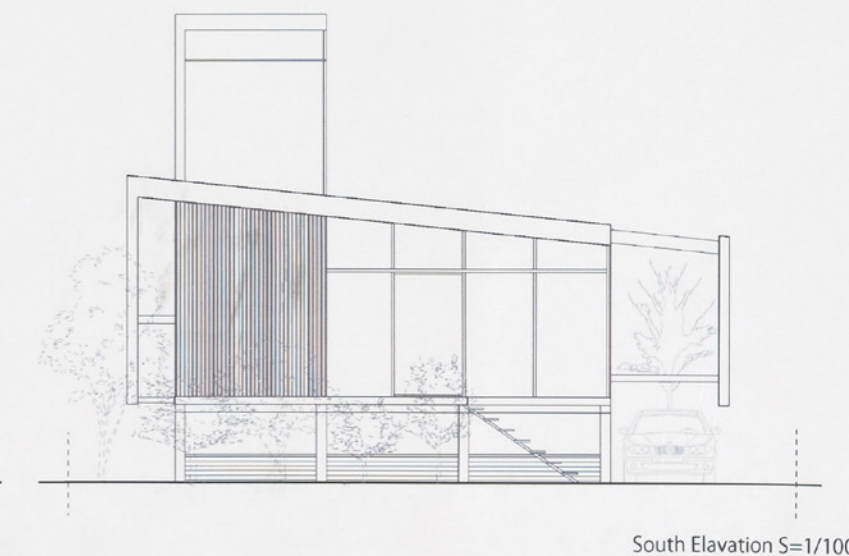
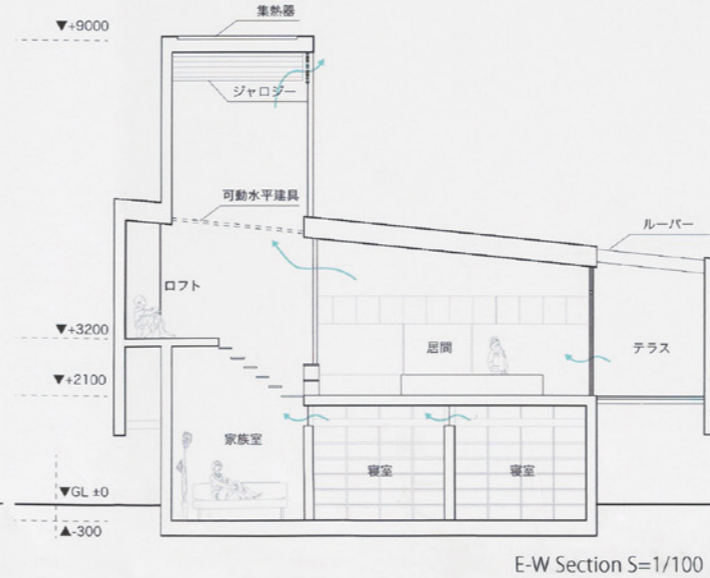
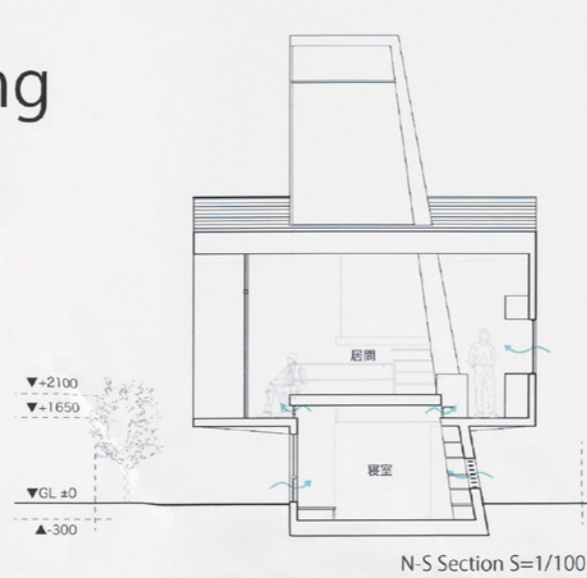


Energy Capture Housing

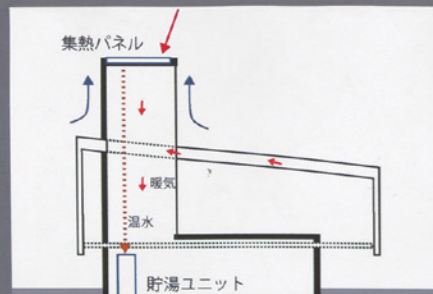
本計画では「solamo」を最大限活用する為の「塔」とその「塔」をよりどころとした環境享受システムを含んだ住宅を提案する。

- ・集熱パネルを塔状ボリュームの上部に設置することで、周辺が高密度しても日照が担保される。また塔状ボリュームは集熱パネルの設置高さを稼ぎつつ、近隣への日影を最小限とするソリューションでもある。
- ・塔状ボリュームは同時に当住居において「煙突(上部廃熱、下部吸冷)」、「蓄熱体」、「灯り取り」としても機能し、環境の恩恵をあますとなく捕捉し、生活スペースへと受け渡す。
- ・上記システムは単体での居住性向上を意図しつつ、相隣的に接続していくことも考慮しており、都市環境の相乗的改善を実現するプロトタイプとなることを意図している。



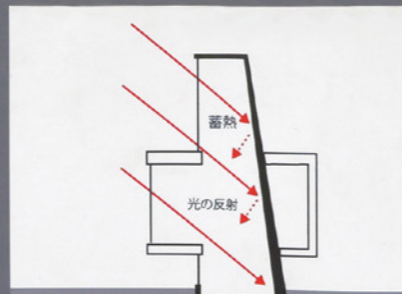
日射活用を最適化する「塔」と「覆い」

日射活用の最大の敵は影である。周りに何が建つかわからない都市的環境の中で常に日射の恩恵をうけることが可能な、solamo の為の塔を建てる。



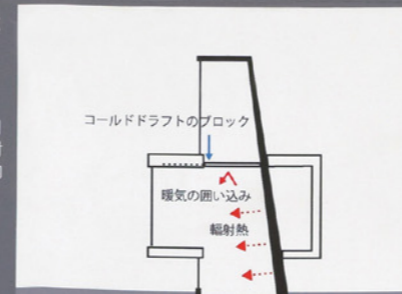
冬の昼間の温熱環境

塔の内壁を蓄熱体とすることで冬の日射エネルギーを有効活用する。塔は同時に光を奥深くへと導く。



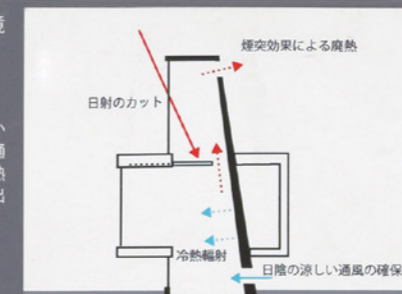
冬の夜間の温熱環境

昼間に塔に蓄えられた日射エネルギーは夜間輻射熱として発散され、室内環境を安定させる。



夏の昼間の温熱環境

塔からの冷熱輻射、覆いによる北側日陰からの通気、煙突効果による廃熱で心地よい環境を作り出す。



夏の夜間の温熱環境

蓄熱体をできるだけさまざまな廃熱通気を最大限活用しナイトバージを促進する。

